

編集室

* 今年6月に編集理事に就任して3か月程度が過ぎようとしております。その間、予想を大きく超える会議があり、編集作業の多様性も実感し、これからこの編集をより充実したものにすべく、前へ進もうと感じている今日この頃です。

* 本会の会員数は、毎年、減少し続けており、それとともに、経済的にも厳しい状況が続いております。厳しい経済状況を改善するためには支出を削減することが第1であり、特に編集作業にかかる経費削減は、そのための重要な要素と位置付けられています。そのため編集関係では、経費削減のために会誌と論文誌の電子化を進めてまいりましたが、これまでの論文誌の電子化に続いて、いよいよ今年1月から会誌もオンラインジャーナル化され、これで学会の論文誌、技術研究報告、大会予稿、会誌といった出版物の大部分が電子化されることになりました。PDFで読む会誌はいかがでしょうか？ まだの方がおられましたら、ぜひ一度御覧下さい。

* 現在はまだ紙の媒体も同時に配送されているので余り感じられないかもしれませんが、オンラインジャーナルの決

定的な弱点として、配送がなくなってしまう、出版タイミングを知らせる情報がメールのみとなるため、これまで紙媒体配送では自然に行われていた、「受け取った瞬間に何となく目を通す」という行為がなくなってしまうことが指摘されています。

* 本会誌では、オンラインジャーナル化の次の対応として、この欠点を克服するため、スマートフォンやタブレット端末に対してプッシュ型で記事の発行を知らせることで紙媒体配送に相当する機能を持たせ、また電車の中などでチラッと会誌に目を通して頂けるサービスを検討しています。近々トライアルサービスが開始されようとしていますので、あと1年くらいたつと会員サービスとして提供できるのではないかと思います。楽しみにしてして下さい。

* なお、プッシュ型サービスは会誌記事配信を担うサービスですが、会誌の命は記事の内容です。より良い内容の記事が提供できるよう、編集委員会では皆さん頑張っておられます。お気付きの点がありましたら、気軽に声をかけて下さい。

(編集理事 三瓶政一)

平成26年11月号特集

「最新テラヘルツ技術と実用化に向けた取組み」予定目次

特集編集にあたって	編集チームリーダー 鳥山和重 廣瀬 明
1. 実用化に向けて加速するテラヘルツ技術	永妻忠夫
2. テラヘルツの要素技術	
2-1 高出力テラヘルツ波光源の最先端と広がる応用	南出泰亜
2-2 テラヘルツ波検出技術の動向	尾辻泰一
2-3 テラヘルツ分光システムの構築——テラヘルツ時間領域分光法を中心に——	北岸恵子
2-4 テラヘルツ波イメージング	深澤亮一
3. テラヘルツ技術の応用例	
3-1 超高速テラヘルツ無線通信技術	枚田明彦 矢板 信
3-2 テラヘルツ帯での宇宙観測——「あかり」からSPICAへ——	中川貴雄
3-3 テラヘルツ分光を用いた医療医薬の分析	味戸克裕
3-4 テラヘルツ波技術のバイオ・メディカル利用	田畑 仁
3-5 地球大気・天体観測用高感度テラヘルツヘテロダイン受信機	入交芳久 川上 彰 諸橋 功 熊谷基弘 関根徳彦 長野重夫 落合 啓 田中秀吉 花土ゆう子 鶴澤佳徳 寶迫 巖
3-6 高速掃引分光技術がひらくテラヘルツの産業展開	西名繁樹
3-7 テラヘルツ波によるセキュリティ応用	大谷知行
3-8 テラヘルツ帯計量標準の研究開発動向	島田洋蔵 飯田仁志 木下 基